

令和3年産 コメ通信

第4号（令和3年6月11日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話0186-62-1835）

茎数増加に向けた水管理を！

1 生育状況と気象経過

【気象経過】

5月の前半は晴れの日が多く、日照時間も多く推移しました（図1）。5月15日は最高気温が30℃を超える真夏日となりました。5月後半は雨の日が多かったため、日照時間は少なく降水量は多く推移しました。また、最高気温が低く、最低気温が高い日が続きました。

【田植え時期の気象】

管内の田植え作業は、始期が平年より1日早い5月16日、盛期も平年より1日早い5月21日、終期は平年並の5月28日となりました。始期頃からの5日間の移動平均気温は、適温とされる14℃（中苗）を全ての期間で上回っており、田植え後の活着は概ね良好だったと考えられます（図2）。しかし、田植え盛期頃から降雨が続き、最低気温は高いものの、日照時間が少ない日が続きました。この期間に田植えを行ったほ場では茎数増加が少ない傾向でした。

【定点調査結果】

6月10日現在の管内水稻定点調査ほ（9地点、品種あきたこまち）の生育は、草丈および葉数の伸展は平年並みとなりました。しかし、茎数は平年より少なくなり、またほ場間差が大きくなりました。5月20日以降の日照不足や日中の気温が上がらなかったことが影響していると考えられます。

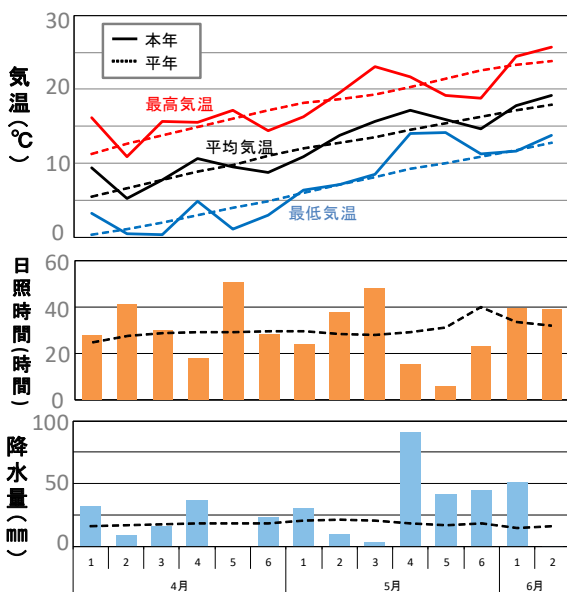


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

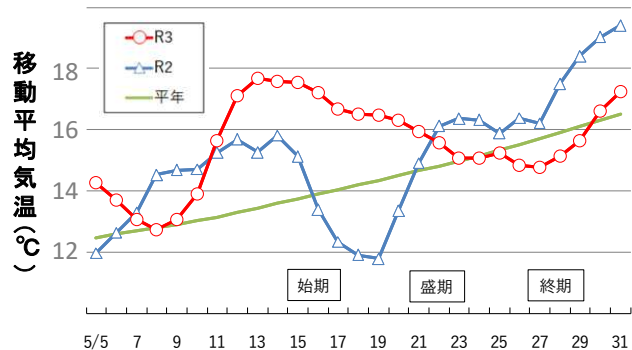


図2 田植え翌日から5日間の移動平均気温の推移（アメダス鷹巣）

○定点調査結果（6月10日）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)
本年	26.4	150	6.3
平年	27.3	210	6.4
前年	26.5	208	6.4
平年比較	97%	71%	-0.1
前年比較	100%	72%	-0.1

※平年は過去10か年の平均値

2 生育状況等に応じた水管理の徹底

【分けつの発生促進】

- 分けつ発生は、日平均水温が23～25℃で、昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。このため、かん水は水温の低い早朝に短時間で終わるようにし、日中は止め水とすることで、地温・水温の上昇を促進します。
- 活着したら、基本は浅水管理とし、水温と地温を高め、分けつの発生を促進しますが、日中の最高気温が15℃以下の低温時には深水にします。

【高温対策（ほ場還元対策）】

- 気温が上昇すると土壌還元（ワキ）が起こりやすくなります。ほ場に足を踏み込んだ時に気泡が発生し、下葉の黄化が見られる場合は、落水や間断かん水等を行い、根の健全化に努めましょう。
- 落水する場合は、除草剤やオリゼメート粒剤等の散布後日数に注意してください。

【適期の中干しによる弱勢茎の抑制】

- 中干しは、弱勢茎（穂になりにくい茎）の発生を抑制するとともに、受光体制が良くなるため、倒伏軽減効果等が期待できます。
- 目標穂数と同数の茎数（70株植で株20本程度、60株植で株25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。中干しの期間は7～10日程度で、軽く足跡が付く程度（亀裂が1～2cm程度）を目安とします。
- ほ場間差が大きい場合、ほ場を見回り、中干し時期を逸しないようにしてください。
- 中干し始めに溝掘りを行うと、その後の水管理や秋作業がスムーズにできるので、積極的に行ってください。

3 いもち病予防（オリゼメート粒剤の散布）

- 初期の発病を抑えることは、その後の葉いもち発生量及び穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱粒剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、オリゼメート粒剤を6月15日頃（6月12～18日）に10a当たり2kg散布します。
- オリゼメート粒剤は、湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間は水を入れないようにします。また、散布後7日間は止め水とし、かけ流し・落水はしないでください。
- 秋田63号にいもち病の発生が確認されています。いもち病拡大を防ぐため防除を徹底してください。

4 ほ場内・畦畔等の雑草対策（斑点米カメムシ類対策）

- 本年は田植え後に田面が露出しているほ場が多く見られます。ほ場内にノビエやホタルイ類等が残草すると、斑点米カメムシ類の増殖源となります。草種に応じて中・後期剤を適切に散布し、雑草対策を徹底します。
- 前年の高温少雨の影響により、斑点米カメムシ類の越冬量は多いと予想されます。斑点米カメムシ類の生息地を減らすため、畦畔・農道だけでなく休耕田や雑草地等を対象に6月上旬から出穂10～15日前までに数回、草刈り作業を徹底します。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源となります。

まだ、**ほ場に放置されている苗が散見されますので、ひっくり返すだけでなく直ちに泥に埋めて処分してください。**

問い合わせはJA、または農業振興普及課まで
HPは「北秋田 コメ通信」で **検索** ～次回発行は6月下旬予定～

